

欠損金の繰戻しによる還付請求書

※整理番号	
※連絡グループ整理番号	

税務署受付印

平成 年 月 日 税務署長殿	(フリガナ) 法人名等	
	納税地	〒 電話() -
	(フリガナ) 代表者氏名	⑩
	代表者住所	〒
	事業種目	業

法人税法第80条の規定に基づき下記のとおり欠損金の繰戻しによる法人税額の還付を請求します。
記

欠損事業年度	自平成 年 月 日 至平成 年 月 日	還付所得事業年度	自平成 年 月 日 至平成 年 月 日
区 分		請 求 金 額	※ 金 額
欠損事業年度の欠損金額	欠 損 金 額	1	
	同上のうち還付所得事業年度に繰戻す欠損金額	2	
還付所得事業年度の所得金額	所 得 金 額	3	
	既に欠損金の繰戻しを行った金額	4	
	差引所得金額 (3 - 4)	5	
還付所得事業年度の法人税額	納付の確定した法人税額	6	
	仮装経理に基づく過大申告の更正に伴う控除法人税額	7	
	控 除 税 額	8	
	使 途 秘 匿 金 額 対 する 税 額	9	
	課税土地譲渡利益金額に対する税額	10	
	リ ー ス 特 別 控 除 取 戻 税 額	11	
	法人税額(6 + 7 + 8 - 9 - 10 - 11)	12	
	既に欠損金の繰戻しにより還付を受けた法人税額	13	
差引法人税額 (12 - 13)		14	
還 付 金 額 (14 × 2 / 5)		15	

請求期限	平成 年 月 日	確定申告書提出年月日	平成 年 月 日
還付を受けようとする金融機関等	1 銀行等の預金口座に振込みを希望する場合 銀行 本店・支店 金庫・組合 出張所 漁協・農協 本所・支所 預金 口座番号		2 ゆうちょ銀行の貯金口座に振込みを希望する場合 貯金口座の記号番号
			3 郵便局等の窓口での受け取りを希望する場合 郵便局名等

- (1) この請求書が次の場合に該当するときは、次の事項を記載した書類を別に作成して添付してください。
- イ 期限後提出の場合、確定申告書をその提出期限までに提出することができなかった事情の詳細
 - ロ 法人税法第80条第4項の規定に基づくものである場合には、解散、事業の全部の譲渡等の事実発生年月日及びその事実の詳細
- (2) 既に請求した還付金額が、その請求の基礎となった欠損金額が過大であること等によって減少するために修正申告書を提出する場合には、次の事項を記入してください。
- イ 当初請求に係る還付金額 円
 - ロ 当初請求書提出年月日 平成 年 月 日
 - ハ 修正申告書提出年月日 平成 年 月 日

税理士署名押印	⑩
---------	---

※税務署 処理欄	部門	決算 期	業種 番号	整理 簿	備考	通信日付印	年 月 日	確認 印
-------------	----	---------	----------	---------	----	-------	-------	---------

欠損金の繰戻しによる還付請求書の記載要領等

(単 体 申 告 用)

- 1 この請求書は、次に掲げる場合に使用してください。
 - (1) 法人税法（以下「法」といいます。）第 80 条第 1 項の規定によって各事業年度において生じた欠損金額をその事業年度開始の日前 1 年以内に開始したいずれかの事業年度に繰戻し、法人税額の還付を請求する場合
(注) 法第 80 条第 1 項の規定は、平成 4 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日までの間に終了する各事業年度(平成 20 年 4 月 1 日以後平成 20 年 4 月 30 日前に終了した事業年度を除く。)において生じた欠損金額については、次の①又は②の欠損金額を除き、適用されませんからご注意ください。
 - ① 次のイからニに掲げる法人の平成 21 年 2 月 1 日以後に終了する事業年度において生じた欠損金額（租税特別措置法第 66 条の 13）
 - イ 普通法人のうち、当該事業年度終了の時ににおいて資本金の額又は出資金の額が 1 億円以下であるもの又は資本若しくは出資を有しないもの（保険業法に規定する相互会社及び外国相互会社を除きます。）
 - ロ 公益法人等又は協同組合等
 - ハ 認可地縁団体、管理組合法人、団地管理組合法人、法人である政党、防災街区整備事業組合、特定非営利活動法人、マンション建替組合
 - ニ 人格のない社団等
 - ② 租税特別措置法第 42 条の 4 第 6 項に規定する中小企業者に該当する法人の設立の日として平成 21 年改正前の租税特別措置法施行令第 39 条の 24 第 1 項で定める日を含む事業年度の翌事業年度から当該事業年度開始の日以後 5 年を経過する日を含む事業年度までの各事業年度（平成 21 年 2 月 1 日前に終了した事業年度に限る。）において生じた欠損金額（平成 21 年改正前の租税特別措置法第 66 条の 13）
 - (2) 法第 80 条第 4 項の規定によって次に掲げる解散等の事実（以下「解散等の事実」といいます。）が生じた場合に、当該事実が生じた日前 1 年以内に終了したいずれかの事業年度又は同日の属する事業年度において生じた欠損金額をこれらの事業年度開始の日前 1 年以内に開始したいずれかの事業年度に繰戻し、法人税額の還付を請求する場合
 - イ 解 散（適格合併等による解散を除く。）
 - ロ 事業の全部の譲渡
 - ハ 会社更生法又は金融機関等の更生手続の特例等に関する法律の規定による更生手続の開始
 - ニ 事業の全部の相当期間の休止又は重要部分の譲渡（これらの事実が生じたことにより繰越欠損金の損金算入の適用を受けることが困難となると認められるものに限る。）
 - ホ 民事再生法の規定による再生手続開始の決定
- 2 欠損金の繰戻しによる法人税額の還付請求は、欠損金額の繰戻しの対象となる所得金額及び法人税額の生じた事業年度（以下「還付所得事業年度」といいます。）から、当該欠損金額の生じた事業年度（以下「欠損事業年度」といいます。）まで、連続して青色申告書である確定申告書を提出している場合に限りて請求することができます。
- 3 この請求書は、次の提出期限までに、納税地の所轄税務署長に 2 通（調査課所管法人の場合は 3 通）提出してください。この場合、還付所得事業年度が 2 以上ある場合には別葉に作成して提出してください。
 - (1) 法第 80 条第 1 項の規定によって提出する場合は、欠損事業年度の確定申告書の提出期限
なお、やむを得ない事情によって確定申告書をその提出期限までに提出することができなかつたものと税務署長が認めた場合には、期限後提出のものでも有効に取り扱われることになっておりますので、このような場合には、その事情の詳細を記載した書類を添付してこの請求書を提出してください。
 - (2) 法第 80 条第 4 項の規定によって提出する場合は、解散等の事実が生じた日以後 1 年以内
- 4 この請求書の各欄は、次により記載します。
 - (1) 「※」欄は、記載しないでください。
 - (2) 「欠損事業年度の欠損金額」の各欄
 - イ 「欠損金額 1」欄には、欠損事業年度において生じた欠損金額（申告書別表 1 の「所得金額又は欠損金額」欄に記載された欠損金額）を記載してください。
 - ロ 「同上のうち還付所得事業年度に繰戻す欠損金額 2」欄には、欠損事業年度の欠損金額のうち還付所得事業年度に繰戻しをしようとする金額を記載してください。
(注) 欠損事業年度の欠損金額は、この請求書を提出する日までに確定した還付所得事業年度の所得金額が限度となりますからご注意ください。
 - (3) 「還付所得事業年度の所得金額」の各欄
 - イ 「所得金額 3」欄には、還付所得事業年度の所得金額（申告書別表 1 の「所得金額又は欠損金額」欄に記載された所得金額ですが、その事業年度について更正が行われている場合には、更正決定通知書の「所得金額又は欠損金額」欄に記載された更正後の所得金額）を記載してください。
 - ロ 「既に欠損金の繰戻しを行った金額 4」欄には、還付所得事業年度について、既に欠損金の繰戻しにより、その一部の法人税額の還付を受けている場合にその繰戻しを行った欠損金額を記載してください。
 - (4) 「還付所得事業年度の法人税額」の各欄
 - イ 「納付の確定した法人税額 6」欄には、還付所得事業年度の納付の確定した法人税額（申告書別表 1 の「差引所得に対する法人税額」欄に記載された所得に対する法人税額ですが、その事業年度について更正が行われている場合には、更正決定通知書の「差引所得に対する法人税額」欄に記載された更正後の法人税額）を記載してください。

- ロ 「仮装経理に基づく過大申告の更正に伴う控除法人税額 7」欄には、還付所得事業年度において法人税額から控除した仮装経理に基づく過大申告の更正に伴う控除法人税額があった場合に、その金額を記載してください。
- ハ 「控除税額 8」欄には、還付所得事業年度において法人税額から控除した所得税額、みなし配当の 25% 相当額及び外国税額の合計額を記載してください。
- なお、還付所得事業年度において法人税額から控除できないため還付を請求した所得税額等については、これに含まれないこととなりますからご注意ください。

- ニ 「使途秘匿金額に対する税額 9」欄には、租税特別措置法第 62 条第 1 項（使途秘匿金の支出がある場合の課税の特例）の規定により加算された税額がある場合に、その金額を記載してください。
- ホ 「課税土地譲渡利益金額に対する税額 10」欄には、租税特別措置法第 3 章第 5 節の 2（土地の譲渡等がある場合の特別税率）の規定により加算された税額がある場合に、その金額を記載してください。
- ヘ 「リース特別控除取戻税額 11」欄には、租税特別措置法第 42 条の 6 第 5 項等の規定により加算された税額がある場合に、その金額を記載してください。
- ト 「既に欠損金の繰戻しにより還付を受けた法人税額 13」欄には、還付所得事業年度について既に欠損金の繰戻しにより、その一部の法人税額の還付を受けている場合に、その還付を受けた法人税額（還付加算金は含みません。）を記載してください。

- (5) 「還付金額 15」欄には、
$$14 \times \frac{2}{5}$$
 の算式によって計算した金額（1 円未満の端数が生じた場合は切り捨てます。）を記載してください。
- (6) 「還付を受けようとする金融機関等」欄には、還付金の支払を受ける場合に、取引銀行等の預金口座への振込みを希望される場合は、その取引銀行等の名称等（該当の文字は○で囲んでください。）、預金の種類及びその口座番号を記載してください。ゆうちょ銀行の貯金口座への振込みを希望される場合は、その貯金口座の記号番号を記載してください。また、ゆうちょ銀行又は郵便局窓口での受取りを希望される場合には、支払を受けるのに便利な郵便局名等を記載してください。
- (7) 欠損金の繰戻しによる法人税額の還付請求を行った後に、その請求の基礎となった欠損金額が過大である等のため修正申告書を提出する場合には、「欠損金額 1」から「還付金額 15」までの各欄は、修正後の欠損金額等に基づいて繰戻しを行った場合の計算を記載し、当初の請求に係る還付金額と修正による還付金額との差額等は、修正申告書の別表 1 の「この申告により納付すべき法人税額又は減少する還付請求税額」欄等に記載してください。
- (8) 「税理士署名押印」欄は、この請求書を税理士及び税理士法人が作成した場合に、その税理士等が署名押印してください。

5 留意事項

○ 法人課税信託の名称の併記

法第 2 条第 29 号の 2 に規定する法人課税信託の受託者がその法人課税信託について、国税に関する法律に基づき税務署長等に申請書等を提出する場合には、申請書等の「法人名等」の欄には、受託者の法人名又は氏名のほか、その法人課税信託の名称を併せて記載してください。